

高岡市総合計画審議会 第9回総括部会 会議要旨

- 1 日 時 令和6年11月25日（月）午後5時15分～午後6時20分
- 2 場 所 高岡市役所8階801会議室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題 (1) 第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」の進捗状況について
(2) 第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」の計画期間延長に伴う数値目標及びKPIの設定について

《市長挨拶》

本市では、第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」に基づき、国や県の力添えのもと、人口減少問題に対して様々な取組みをしてきたところ。しかしながら、日本全体で人口減少に歯止めがかかっていない現実を受け入れていかなければいけない。人口減少が進む中で市民サービスをいかに維持していくかについては、総合戦略や総合計画において考えていかなければならない重要なテーマだと思っている。

次期の計画策定等を見据えて、現在の総合戦略の現状把握、課題抽出を行い、どのような対応や対策を講じていくべきか協議させていただき、市民が夢と希望を持てるような高岡市を目指して進んでいきたいと考えている。本日は忌憚のない意見をぜひお聞かせ願いたい。

(1) 第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」の進捗状況について

【主な意見】

《オブザーバー（有識者）》（事務局代読）

過去にも申し上げたように、高岡市を外から見るとどうなのかを一度考えてはどうか。

例えば、千葉市では有名ユーチューバーを起用することで、競輪事業の売上が大幅にアップする等、外部人材を活用して成功している。

高岡市のYouTube番組「プラスタカオカ」で取り上げられている「高岡市営業部」や「地域おこし協力隊」の動画は良い内容であるにも関わらず視聴数が少ない。密接な関連がありながら全く別の施策や別の活動のように見えており勿体無いと思う。一本の筋の通った戦略となるように関連性を整理してはどうか。

《市長》

高岡市営業部は2年前から始めた新しい取組みであり、地域おこし協力隊についても、現在も積極的に導入を行っているところである。これらを含め、これまで実施してきた事業の分析や効果検証をしっかりと行い、次の計画に向けてどのように反映させるか検討を進めることで、情報発信の戦略についても整理したいと考えている。

《委員》

第3期総合戦略の策定予定はあるのか。

《市長》

策定を予定している。ただし、国の方針に合わせて、これまでと内容が変わる場合や総合計画と総合戦略を一体化して策定する可能性もある。策定の際は、皆様にご意見を諮りながら高岡市の個性が表れる内容にしたい。

《委員》

総合戦略の4つの基本目標は、「安心して子どもを生み育てられる」というライフの部分と「魅力的なしごとで挑戦できる」というワークの部分、「誰もが自分らしく活躍する」というセルフの部分があり、それらが「多様なひとが住みたいまちをつくる」とされており、大変良く設定されている。

基本目標を達成するためにどのような指標が良いか考えてみると、間接的な指標にこだわるのではなく、アンケート結果など市民の声が分かるような直接的な指標を設定するのもよいと思う。

また、人口減少の理由として就職を機にした若い女性の流出が問題となっているので、若い女性の視点やジェンダーギャップの視点も指標に取り入れるべきと考える。

《市長》

ご指摘のとおり、例えばホームページのアクセス件数のような数値目標では、住みたいと思うまちに向けてどれだけ豊かになったか測れないのは承知しており、アンケートで生の声を聴くことが大事と考えている。現在、市の各事業において、アンケートの回答者を増やすためのしかけづくりを進めているところであり、引き続き多くの市民の声を聴いていくつもりである。

人口減少については、女性が活躍する企業を増やすことが大事と考えており、高岡にも女性が活躍している企業があることを発信していきたいと考えている。また大学進学のため県外に転出した方々が高岡に戻ってきてもらえるような仕組みをつくりたいと考えており、県外の大学に進学した県出身者と市が接点を持てるよう県に対して情報提供をお願いしているところである。

《委員》

福井県坂井市には行政が少子化対策の柱として結婚を応援する結婚応援課がある。坂井市が実施したアンケートによると、女性が東京に転出する理由は東京が楽しいからではなく、家庭の行事等で担う女性の役割が嫌だからとのことである。

待機児童数は、少子化の影響もあり引きつづき0人を維持できると思う。一方で、特別養護老人ホームに入所できない待機老人が増えている。待機老人に対する支援を実施することが、老々介護やヤングケアラーの問題解決につながり、ひいては若者の労働環境の向上にもつながると思われる。「住みやすい高岡」を目指すためにも高齢者への支援をお願いしたい。

《市長》

坂井市も少子化対策にかなり苦労していると聞いているが、高岡市において婚活事業を高岡地区広域圏事務組合にて実施しているのは、高岡市内だけでは規模が小さく男女がマッチングしないという理由がある。また他市町村の住人同士が結婚して、高岡市に移り住んでくれるなど広域で事業を実施することのメリットもある。なお、高岡市としても結婚を望む若者の考えに寄り添えるよう、若手の職員で構成する「高岡市営業部」で、25歳前後をターゲットとした婚活事業を検討しているところである。

老々介護については課題として認識している。高齢者施設を建設する際には働き手が集まらないのが現状である。県は労働力不足の解消のために外国人材を活用したいと考えているとのことだが、国による規制等がありなかなか進まないとのこと。市として、この状況をどのように打破していくのか検討している。

《委員》

個人的には、施設を増やすのではなく在宅介護を推し進めてほしいと考える。介護が家族の重荷になってはいけませんが、高齢者が住み慣れた場所で過ごせるようになることが大事と考える。そのためには、地域に担い手をつくり、高齢者を地域で見守り、支える環境づくりが重要である。

《市長》

在宅介護の取組みについても市として進めている。施設に入るほうがよい方や在宅介護がよい方など様々な人がいることは理解している。引き続き、丁寧に各地域の課題を洗い出し、社会福祉協議会などの力を得ながら重層的に支援していく。

《委員》

高岡市が住みたい地域となるためには、明るい話題や前向きな話題を発信していくことが大事であると考えている。特に発信力のある若者に高岡の魅力を伝えることができれば、高岡の良さを広く周知することができるのではないか。

《参与》

県外から結婚を機に高岡に来られた方に、外から高岡市がどのように見えるか聞いたところ「何もないところ」と言われた。移住者や県外の大学に進学した学生に、高岡市がどのようにみえているのかアンケートをとってはみれば新たな高岡の魅力が分かるのではないか。

《市長》

「高岡市は何もない。だからこそビジネスチャンスが潜んでいる。」と思ってもらうことで、若い移住者や県外に転出した方々に高岡に来てもらいたい、戻ってきてもらいたいと考えている。挑戦しやすい環境だと思ってもらえるように様々な支援を用意しているところである。

《オブザーバー（有識者）》

高岡市には多くの企業があり、就業先、働きやすさなど魅力があると感じるが、情報発信力が足りないと思う。また、ポジティブな発信をあまりしない市民性があると思うので、ポジティブな発信を増やすキャンペーンをしてはどうか。市民の満足度を高めるためには、満足度を図る指標のフィードバックを繰り返すしかないと思う。

《市長》

ポジティブな考えの若い世代も増えてきているので、そういった若者が主役になる社会が構成できれば今までネガティブな発信をしていた方々も良い影響を受けると思う。

《会長》

「共創」、「再発見」、「発信」、そして「『ひと』の力」は、地方創生の大事なキーワードなので、時代が変わってもぶれずに、これらを意識しながら事業に取り組んでもらいたい。

(2) 第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」の計画期間延長に伴う数値目標及びKPIの設定について

《会長》

総合戦略の計画期間延長に伴う数値目標及びKPIの設定について、事務局からの提案を了承いただけるか。

(出席委員全員による承認)

《会長》

それでは、この案をもって、総合戦略の計画期間延長に伴う数値目標及びKPIを設定することとさせていただきます。

総合戦略の進行管理にあたっては、本日いただいたご意見を参考に、市で事業を進めていただきたい。皆様、本日は限られた時間の中でのご審議、誠にありがとうございました。

(以上)